

■井上光貞 <敗戦>によって状況が一変した戦後の日本古代史研究の発展を主導した。

いのうえみつさだ

ロシア革命・1917＝ 東京で、井上馨の娘に婿入りした桂太郎の次男の子という名門に生まれ、

原敬首相暗殺1921＝

日本時代始・1926＝ 9歳：

学習院初等科を経て、

海軍軍縮条約1930＝13歳：成蹊高等学校尋常科に入学、

満州事変・・・1931＝14歳：

帝人疑獄事件1934＝17歳：高等科理科に進むも、

芥川直木賞始1935＝18歳：腎臓を病んで、文科に転じ、

日中戦争始・1937＝20歳：

津田左右吉の著作などから影響を受けて、

大政翼賛会・1940＝23歳：卒業後、東京帝国大学文学部国史学科に入学、

日米開戦・・・1941＝24歳：

・・・1942＝25歳：戦時下で繰上げ卒業となり、病後で徴兵を免れて大学院に進み、和辻哲郎に就いた。

創価学会検挙1943＝26歳：「王仁の後裔氏族とその仏教」、

年金+総武装 1944＝27歳：

敗戦・・・1945＝28歳：<敗戦>によって、まず主任教授の平泉澄が辞表を提出して引退し、

新憲法公布・1946＝29歳：中村孝也が定年退職、自らは助手となって、天皇中心の歴史観の退場の渦中に身を投じるうち、

極東裁判決・1948＝31歳：*教授不適格となった板澤武雄も去って国史学科が若返るなか、{新日本史講座}に「部民史論」を発表。

三大事件・・・1949＝32歳：*新設の東京大学教養学部講師から助教授となり、一般教育の国史を担当、意欲的に教育に取り組むとともに、良心的かつ学問的な教科書や受験参考書を執筆して高い評価を得る。

メーデー事件・1952＝35歳：大化改新詔の信憑性を巡って問題提起、郡評論争を起こし、のち正しさが証明される。

テレビ放送始・1953＝36歳：

<敗戦>直後から始めた浄土教研究がまとまり、

独立回復・・・1951＝38歳：

国連加盟・・・1956＝39歳：{山川出版社}から「日本浄土教成立史の研究」を刊行して、

なべ底不況・1957＝40歳：翌年にかけてインドに留学、

イヌイトブーム・1958＝41歳：中近東から欧米を回って視察調査、

美智子妃・・・1959＝42歳：東京大学から文学博士号を受ける。

安保闘争・・・1960＝43歳：岩波新書「日本国家の起源」、

タイタイ病始・1961＝44歳：文学部助教授に異動後、駐日大使となったハーバード大学のライシャワーの後任としてアメリカに渡り、

全国総合計画1962＝45歳：*帰国、思想と歴史観に大きな転機となった。「カモ県主の研究」、

東京テレビック 1964＝47歳：「大化改新の詔の研究」を発表、律令制の確立を謳う従来の見方を否定、その出発と位置付けた。

大学紛争始・1965＝48歳：*代表的著作「日本古代国家の研究」。{中央公論}の{日本の歴史}の第一巻として「神話から歴史へ」を執筆。

美濃部都知事1967＝50歳：国史学科教授に昇進。

震ヶ関とル・1968＝51歳：東京大学学生委員会委員となり、勃発した<東大紛争>の対応に追われ、学生集会で追及されるなか、

全共闘・・・1969＝52歳：「行基年譜-特に天平十三年記の研究」、

ドルショック・・・1971＝54歳：岩波書店{日本歴史叢書}の1冊として「日本古代の国家と仏教」を執筆、

日中国交回復1972＝55歳：「三経義疏成立の研究」など、厳密な史料分析による論文を発表。

石油ショック1973＝56歳：

角栄金脈辞任1974＝57歳：以降3年、文学部長を務める。

田中角栄逮捕1976＝59歳：心筋梗塞の発作に襲われ、

JALハジャック・1977＝60歳：心臓バイパス手術を受ける。

成田衝突・・・1978＝61歳：*東大を定年退官して、国立歴史民俗博物館設立準備室長に迎えられ、

貿易摩擦始・1980＝63歳：

・・・1981＝64歳：*主張が採用されて、文化庁所管から国立大学の共同利用機関となり、その館長に就任、

開館・展示に向けての準備に専念したが、

中曽根内閣・1982＝65歳：

テレビニュース 1983＝66歳：*展示開始直前に、肺炎を患って没した。